

留学報告書 ～留学先での経験～

北京語言大学
外国語学部生（中期）

僕は留学先で様々な事を経験しました。

主に中国での生活、授業、友達に焦点を当てて話していきたいと思います。

まず、僕が中国に着いて最初に目に飛び込んできたのが中国の街並み、風景です。

多くの人が想像する中国というのは空気が汚染されているなどあまり良いイメージがないように思われます。以前までは確かにそうだったのですが、最近は少しずつ良くなってきていてそこまで心配する必要がないように思います。中国には胡同と呼ばれる狭い路地のようなものがあり、小さな商店がいくつも並んでいます。観光名所としても有名で古くから知られています。造りもやはり日本とどこか違う感じで、中国らしいコンクリート造りになっていました。人々の生活面から見てもやはり日本とは文化が違うせいか、電車の中でのマナーも全く違いました。また、各地の観光名所や、地下鉄などの公共交通機関には警察が配備されて規制の厳しさを知りました。テレビを観ている時も軍事的な内容なものが多くあまりバラエティー番組などはない印象を受けました。週末にはよく五道口と呼ばれるショッピング街に行っていました。物価も日本と比べると少し安く、色々なものが買いやすかった印象を受けます。また、駐在員の方が主催するテニスサークルにも参加し、そこに来ていた中国人の方とも会話を楽しんでいました。日常生活の中でも自分の知らなかった言葉も覚えられ勉強になりました。僕が行った北京には本当にたくさんの観光名所があり、やはりその中でも大半を占めるのが宮や寺といった歴史的な建造物です。代表的なものを言うと天安門広場にある故宮があります。万里の長城も是非登ることをお勧めします。僕も中国に行くまで知らなかったのですが、万里の長城にはいくつもの入り口があり、最初から最後まで登り切らなくても途中から登って景色を堪能することが出来るのです。僕が行った季節は10月の下旬にもかかわらず暑く、服一枚で登ったのを今でも覚えています。道は本当に長く、改めて中国のスケールの大きさを感じました。やはり景色も綺麗で一生忘れられない思い出になりました。

来たばかりの頃は本当に不安で無事にやっけて行けるかどうかとても心配でした。

授業が始まる前にクラス分けテストがあり、結果中級クラスに入ることになりました。

いざ、授業当日になって教室に入ったら周りにはみな外国人でした。先生の授業も中国語で他の生徒もそれを理解しているようでした。最初は本当に何回変わりたいと思ったか分かりません。ですが、せっかく留学に来たのだから難しいことを勉強したいと思い、諦めずに喰らいついて行きました。その結果中盤にはほとんど先生の言っている事が理解できるようになりました。あの時の嬉しさは今でも忘れられません。そこで諦めずに頑張ること

の大切さを知ると共に実感しました。確かに授業は難しかったですが、その分色々な単語、文法の用法も勉強でき覚えられたので嬉しかったです。それと同時に他の国の勉強に対する接し方、真面目さなども垣間見ることが出来ました。留学には社会人の方から僕と近い年齢の方、更には自分より年下でまだ高校生という方まで幅広い年代の方が集まって、一緒に教室で授業を受けました。聞いたところによると、皆さんやはりそれぞれ中国語を勉強している目的は違うものの、勉強に対する姿勢という点では同じものを感じましたし、僕も頑張らなくてはと思うようになったのもそのためだったと思います。やはり、仕事、ビジネスで使う中国語を勉強するのが好きでやっているなど本当に色々な人がいました。中にはすでに5か国語も話すことが出来るという人にも出会いました。正直こういった出会いは日本には経験出来ないようなことだと思っているので本当に留学して良かったと思います。その経験を通じて中国語に対する意識、見方も変わりましたしもっと難しいことが知りたいと思うようにもなりました。もうすぐ就職活動がスタートしますが、やはり何事にもチャレンジしてみるというチャレンジ精神も同時に身についたと思います。失敗してもいいからとにかく何かやってみようという気になったのも留学し僕自身が変われたからだと思っています。もちろんこの留学に一人で行ったこともチャレンジですし、日頃絶対に味わうことの出来ない経験をさせてもらえたと思っています。なので親にはとても感謝しています。

授業が始まって少し経った頃に同じクラスのタイ人の方と仲良くなりました。その日をきっかけに毎日放課後の昼食は一緒にご飯を食べるようになっていました。お互いの国の文化や習慣などを色々話してタイの文化や習慣など日本とはまた少し違った点を聞き、理解することが出来ました。タイの方はとても発音が良かったのもすごく印象的でした。その理由の一つとしてタイ語にも中国語と似たような発音が多く、そのため漢字は難しいが会話は得意というまさに日本人と反対の現象だなと思いました。確かに僕にとって発音はすごく難しく最初の方はなかなかうまく相手に伝わらなかったのですが、それでもお互いに頑張って理解しようとして特別上手くとは言いませんが普通にコミュニケーションが取れるまでにはなりました。改めて発音の大切さを痛感させられた瞬間でもありました。それ以降発音もしっかり意識して話すようになりました。また、食堂で会った中国人の方にも発音が上手くないと全く伝わらないよと言われ、これからは発音も徹底的にやっていたいと思っています。それでも前の留学と比べたら明らかに単語量も増え、来る前までは話すのをためらっていたのに今では自分から話したいと思えるようになったというのは本当に嬉しかったです。とても実感しています。タイの方にも会話が上手くなったと言われ今の勉強のモチベーションにもつながっています。お互いに分からない単語があつては調べ、後半にはほとんど辞書を使うことなく理解出来るようになっていました。本場の中国の方と対等に話せるようになるにはまだまだ時間がかかるとは思いますが、これからやっといこうという面ではすごく良い機会だったのではないかと個人的にはそう思っています。本当に色々なことを総合して実のある留学だったと思います。

